

令和 3 年 6 月 16 日現在

機関番号：34311

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12261

研究課題名(和文)小津安二郎直筆資料群をはじめとする、映画一次資料の保存・展開に向けた基礎的研究

研究課題名(英文) Research on Preserving and Communicating Primary Sources of Films Using an Archive of Ozu Yasujiro

研究代表者

宮本 明子 (MIYAMOTO, Akiko)

同志社女子大学・表象文化学部・准教授

研究者番号：60633419

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：国内資料館に所蔵される小津安二郎直筆資料群を調査し、小津安二郎研究および日本映画研究に位置付けた。また、小津と脚本を執筆した野田高梧の日記の翻刻、小津の撮影した写真の修復など、一次資料の保存・展開に向けた具体的な取り組みも実施した。最終年度には新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所の協力のもと、同研究所ウェブサイトにて野田の手帳の翻刻をはじめて掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国内各所に所蔵される小津安二郎直筆資料群および関連資料を調査した。主な成果として、3点あげられる。小津が少年期を過ごした三重県での聞き取り調査を重ね、既存の小津の年譜の不明点を解明した。一般書として刊行した『小津安二郎 大全』(朝日新聞出版)において、取材結果や論考とともに、再検証した小津の年譜や少年期の絵画、中国戦線で小津が撮影した写真等を掲載、紹介した。小津と脚本を執筆した脚本家野田高梧の手帳の翻刻を行い、新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所の協力のもと公開した。以上の通り、一次資料の精査を元に既存の研究を補い、今後の小津および映画研究に貢献する成果を生み出せたと言える。

研究成果の概要(英文)：This research aims to preserve and communicate primary sources of films, which were mainly an archive of Ozu Yasujiro's handwritten notes. Those notes housed in the domestic archives were examined in order to determine their position in studies on Ozu and on Japanese films, based on the times when they were written and their content, including the transcription of a diary kept by Noda Kogo, who wrote a script with Ozu, and the restoration of photos taken by Ozu. In the final year of the research, Noda Kogo Memorial Tateshina Writers Research Institute cooperated in posting the transcription of Noda's diary for the first time on their website.

研究分野：表象文化論

キーワード：映画史 映画 一次資料 アーカイブ 小津安二郎 野田高梧 松竹 台本

## 1. 研究開始当初の背景

2018年度までに、小津安二郎監督作品の台本やノートなど、映画製作過程が窺える一次資料（以下、小津安二郎直筆資料群とする）の調査を進め、関係者への取材を進めてきた。主として川喜多記念映画文化財団、鎌倉文学館、松竹大谷図書館において一次資料調査を進め、関係者としてカメラマン川又昂、プロデューサー山内静夫、撮影助手兼松熙太郎氏へ取材を進めてきた。いずれも小津安二郎の映画制作過程を実証的に検証する作業であり、これらを一般視聴者にもわかりやすい方法で公開することが待たれていた。小津といえば国内外ですでに多くの議論がなされてきたものの、一次資料が言及されることはほとんどない。調査の過程で、経年劣化が懸念される資料をいかに保存するかという問題意識も生まれた。

以上の調査結果の公開および資料の保存展開の方法を探り、実践したいと考えた。実践のためには資料寄託先や関係者との連携が必要となるが、関係各位の協力を得て、研究の基盤や体制は整えられていた。

## 2. 研究の目的

上記の通り調査を進めてきた小津安二郎直筆資料群の成果を公開し、資料の保存展開の方法を探る。実践にあたり、一般にもわかりやすい方法で展開する。

## 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、主に以下3つの方法を用いる。

### (1) 調査結果を整理する

- ・所蔵場所や状態など資料の内容を整理する
- ・新しい資料を確認し従来の調査を補完する

### (2) 調査結果を公開する方法を探る

- ・媒体を検討し関係者から教示を得る
- ・具体的な公開の方法を探り実践する

### (3) 資料の保存展開の方法を探る

- ・媒体を検討し関係者から教示を得る
- ・保存展開の方法を探り実践する

(1)では、小津が少年期を過ごした三重県での調査を実施し、既存の小津の年譜の不明点を解明する。(2)では、一時的な研究発表報告にとどまらず、長期に参照しやすい方法を探る。ウェブサイト、パンフレット、書籍など媒体を検討するとともに、すでにこうした取り組みを実践している関係者に教示を得る。(3)では、経年劣化が懸念される日記を中心に、保存展開の方法を探る。

## 4. 研究成果

上記の方法を実践し得られた成果のうち、以下が本研究の特色と言える。

(1)では、小津が少年期を過ごした三重県での調査を実施し、既存の小津の年譜の不明点を解明できた。(2)では、関係各位の協力のもと、再検証した年譜や少年期の絵画、中国戦線で小津が撮影した写真などを『小津安二郎 大全』（朝日新聞出版）に掲載し、刊行した。(3)では、小津と脚本を執筆した脚本家野田高梧の手帳の翻刻を行い、新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所協力のもと、同研究所ウェブサイトに『『麥秋』執筆日記』『『東京物語』執筆日記』を掲載した。野田の手帳の内容が初めて明らかになり、今後の小津および映画研究に寄与する基礎的研究と位置付けられる。

以下、年度ごとに成果をまとめる。

### (1) 2018年度

先行する事例の参照と課題の調査を進めた。従来の東京、三重、長野での取材に加え、新たに京都での取材を行い、映画台本の修復・保存事例を調査した。修復・保存の具体的な手順、予算や時間などの課題を確認した。台本に限っても、小津の場合、比較的多くの点数が残されており書き込みの有無も異なっている。一定の予算、時間で取り組むために対象をいかに選択すべきか、検討した。研究、調査報告と並行し、研究調査の集大成となる書籍『小津安二郎 大全』を刊行した。本書では国内外の映画監督、俳優、評論家、作家、研究者へ取材や執筆を依頼し、小津とその作品について様々な観点が提示された。本書では一次資料も含めて小津の年譜、論考を紹介できた。小津による写真はデジタル修復を行い掲載し、小津による絵画、8ミリフィルムの画像についてはカラー図版として掲載した。

## (2)2019 年度

前年度に得られた調査結果を整理し、不明点の解決を図ることに注力した。資料の保存展開としてアーカイブを作成し運営するには、一般にも使いやすいありかたが求められる。どのような情報が求められているのか、質疑応答、意見交換を行い確認するよう努めた。国立国会図書館、国立映画アーカイブ、川喜多記念映画文化財団などで調査を行うとともに、小津組のプロデューサーを務めた山内静夫、同じく撮影助手を務めた兼松熙太郎両氏に改めて伺い、前年度の調査で生じた不明点について教示を得た。また、書籍『小津安二郎 大全』をめぐって、シンポジウムやイベント、国際学会での報告を行い、一般との質疑応答、意見交換を行った。2020 年 1 月に実施した『小津安二郎 大全』刊行記念シンポジウム OZU2020 では、周防正行、望月智充、小沼純一、船橋淳、石井妙子、志村三代子、松浦莞二と意見交換を行い、小津安二郎を本研究の過程で新たに発見された資料からも位置付けることや書籍で示された諸点（撮影に 50 ミリレンズも使用されていたという事実や音響など）の意義が確認されるとともに、監督や撮影方法についてさらなる資料調査を進めてほしいとの依頼を受けた。

## (3)2020 年度

一般にも参照しやすい資料の保存展開方法として書籍『小津安二郎 大全』を刊行できたのに対して、ウェブサイトを用いて、資料を参照できる方法を検討した。これには著作権、関係各位との連携が必要であり課題が残るが、長野県の新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所の協力のもと、同研究所ウェブサイトにて、小津と脚本を執筆していた脚本家野田高梧の手帳の翻刻を掲載のはこびとなった。翻刻を進めた『『麥秋』執筆日記』『『東京物語』執筆日記』を掲載し、同研究所渡辺千明の解説を付した。

著作権、所蔵先などとの連携も必要であるため、小津の場合は 2021 年時点で同様の公開を行うまでには至っていない。この点についてはどのように公開を進めるかも含め、関係者と引き続き検討し、実現につなげたい。

以上の成果は論文、口頭発表、一般を対象としたトークイベント、シンポジウムにおいて報告した。2020 年 9 月には NHK『歴史秘話ヒストリア』小津安二郎特集に関わり、出演したなかで、小津を一般へどのように伝えるかの知見も得た。研究実施にあたり、関係者より継続的な協力、教示を得られていることに感謝したい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 宮本明子	4. 巻 37
2. 論文標題 『箱入り娘』から『晩春』へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 総合文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 1日で学ぶ 小津安二郎の世界
3. 学会等名 毎日文化センター一日講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 周防正行、宮本明子、松浦莞二
2. 発表標題 周防正行トーク
3. 学会等名 『小津安二郎 大全』刊行記念シンポジウム OZU2020
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 吉村誠、宮本明子
2. 発表標題 小津はオモロイ！
3. 学会等名 梅田蔦屋書店トークイベント
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山内静夫、兼松熙太郎、宮本明子
2. 発表標題 同志社女子大学日本語日本文学会企画講座 特別トーク
3. 学会等名 同志社女子大学日本語日本文学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 Hawaiian Music Meets Ozu's Film: A Study on "What Did the Lady Forget?"
3. 学会等名 The International Symposium on Business and Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎の中国、シンガポール体験を再考する
3. 学会等名 WAA (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦堯二、宮本明子
2. 発表標題 『小津安二郎 大全』をめくって
3. 学会等名 全国小津安二郎ネットワーク
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保坂和志、松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 『小津安二郎 大全』（朝日新聞出版）刊行記念 保坂和志 × 松浦莞二 × 宮本明子 トークイベント
3. 学会等名 青山ブックセンター本店イベント
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 保坂和志、松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 『小津安二郎 大全』（朝日新聞出版）刊行記念
3. 学会等名 青山ブックセンタートークイベント（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中康義、宮本明子
2. 発表標題 特集：小津4K 巨匠が見つめた7つの家族
3. 学会等名 特集：小津4K 金沢シネモンド・トークショー（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 映画と小田急 1950 1970年代日本映画における運動と情動
3. 学会等名 小田急財団研究成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 Jurong and Ozu in the 1940s
3. 学会等名 International Symposium on Business and Social Sciences (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 The Appearances of John Ford's Impacts in Yasujiro Ozu's Films
3. 学会等名 International Conference on Social Science and Business (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中康義、松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 世界がみた小津安二郎監督
3. 学会等名 映画監督 小津安二郎企画展 小津安二郎生誕115年・小津安二郎青春館開館15周年
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 兼松熙太郎、松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 『彼岸花』から『秋日和』まで - 松竹大船撮影所時代
3. 学会等名 映画監督 小津安二郎企画展 小津安二郎生誕115年・小津安二郎青春館開館15周年
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 映画から文学へ 小津安二郎直筆資料群を読む
3. 学会等名 同志社女子大学日本語日本文学会第33回総会・記念講演会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 松浦莞二・宮本明子ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 朝日新聞出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 小津安二郎 大全	

1. 著者名 田中康義	4. 発行年 2019年
2. 出版社 龜鳴屋	5. 総ページ数 288
3. 書名 豆腐屋はオカラもつくる 映画監督小津安二郎のこと	

1. 著者名 早稲田大学文学学術院総合人文科学研究センター研究部門「現代日本における『信頼社会』再構築のための総合的研究」編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 文化書房博文社	5. 総ページ数 163
3. 書名 それでも、「信頼」の可能性を問う	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------